

植物生育調節材パクロトラゾール水和剤によるおうとうの新梢伸長抑制効果

おうとうは、初期生育が旺盛で、安定した生産ができるまで5年以上を要する。植物生育調節剤パクロトラゾール水和剤を散布することによって新梢伸長が抑制され、樹体をコンパクトに維持できるとともに、花芽着生が促進され、結実向上効果が期待できる。

表1 処理後のおうとうの生育状況

年次	試験区	樹高 (m)	幹周 (cm)	樹容積 (m)	新梢長 (cm)
平成4年 (処理当年)	処理区	4.5	41.0	56.7	39.2
	無処理区	4.2	45.7	48.8	36.5
平成5年 (処理1年後)	処理区	4.2	45.2	46.0	18.2
	無処理区	4.3	48.8	51.8	23.3
平成6年 (処理2年後)	処理区	4.3	52.7	77.2	21.2
	無処理区	4.5	55.1	80.4	22.0

注) 供試樹：佐藤錦 / コルト、6年生樹
処理日：H4.7.8、H6.7.13

おうとうの収穫後にパクロトラゾール水和剤を散布することにより処理翌年度の樹容積、新梢伸長は抑制される。

効果は処理翌年まで持続するので連用は避ける。

パクロトラゾール水和剤の散布によって花束状短果枝当たりの花芽数が多くなり、結実向上が図られる。



写真1 おうとうの着果状況

表2 花芽の着生状況(品種 / 台木：佐藤錦 / コルト S60植栽)

試験区	樹容積当たりの花芽 の着生数 (H5春)	樹容積当たり花束状短果枝数	
		H5春	H5冬
処理区	183.2	25.4	39.9
無処理区	104.2	26.4	21.3

注) 処理日 H4.7.10